

舌の音ね

夏の風とかけまして、アナウンサーととく。
その心は……舌がよく回る。

俺の場合「ぜつ」って読むんだけどな。

風鈴は、外見や短冊が注目されがちだけど、
その間にいる小さな部品が、俺。

俺がいないと、あの涼やかな音は響かない。

夏の夕暮れどき、日差しが和らいで、

風鈴の音とともに夕餉の香りが漂ってくる。

うなぎの山椒、なすのしぎ焼きの生姜湯、
そうめんの薬味、鮭茶漬けのわさび、

スイカの塩、かき氷の練乳。

俺と同じ、小粒でもいい仕事をするやつら。
夏の楽しみは、まだこれからだ。



ぐるたーより

風鈴の音も虫の音も、心地よく感じる人もいれば、雑音に聞こえる人もいますよね。同じ人でも、そのときの体調や感情、置かれる状況によって、感じ方が変わることもあります。

想像してみてください。それまで雑音に聞こえていたものが、ある一瞬を境に音楽として聞こえてきたとしたら、どうでしょうか。聞こえている音は変わらなくても、自分の感じ方が変われば、世界は一変します。気づいていないだけで「世界は素晴らしい喜びを与えてくれているもので、あふれている」と思うと、わくわくしませんか？


これは、仕事でもいえることです。わかりやすくお茶汲みを例に挙げると、それを雑用と捉えるのか「コミュニケーションを取るためのチャンス」とか「むしろ最高の一杯を極めてやる」という姿勢で取り組むかで、人としての成長が大きく変わります。

与えられる仕事は変えられなくても、自分自身の取り組む姿勢を変えれば、見える景色も感じられるものも

変わってくるのではないのでしょうか。次回は10月にお届けします。

どうぞ健やかに、お過ごしください。



 デルター株式会社

<https://www.deltar.co.jp/>

〒444-0863 愛知県岡崎市東明大寺町9-10

TEL : 0564-65-1088 FAX : 0564-65-7060 E-mail : info@deltar.co.jp